

## 「第22回世界妊娠高血圧学会（ISSHP2021）」開会式におけるおことば

令和3年9月15日

本日、第22回世界妊娠高血圧学会（ISSHP2021）が、日本妊娠高血圧学会の公式な支援のもとに開催されますとともに、開会式にオンラインで出席できますことを大変うれしく思います。またこの機会に、妊娠高血圧症候群の女性の健康を増進したいと願う気持ちを皆さまと分かち合うことができますことをありがたく思います。この会議の開催にあたり、尽力してこられた方々に、心より感謝の気持ちを表します。

妊娠高血圧症候群の中でも、妊娠高血圧腎症は、妊婦の死亡や周産期死亡の主な原因の一つです。世界妊娠高血圧学会によると、妊娠高血圧腎症によって、胎児・新生児は毎年50万人以上が、そして母親は7万人以上が亡くなっています。妊娠高血圧腎症は、妊婦の様々な臓器に深刻な影響を与え、胎児の発達と胎盤の機能を阻害して、早産の原因ともなります。こうした問題を解決するため、世界妊娠高血圧学会は、研究を促進し、適切な情報を広め、教育を振興することにより、妊娠高血圧症候群の予防や治療にあたっての課題への対応に大きく貢献してきました。この分野で力を尽くし、患者の話に耳を傾け、患者が抱える困難を軽減するために努力しておられる皆さまに、深く敬意を表します。

リスクの高い妊婦が早い段階で見つければ、適切な対策をとることにより、妊娠中の健康障害を軽減する可能性が高まります。日本では、妊娠した女性が受け取る母子健康手帳に、医療専門家が、血圧や尿蛋白などの健康指標値を定期的に記入します。これらの数値により、妊娠高血圧腎症の早期発見につながります。もし、妊婦の定期健診で問題が見つければ、医師による医療上の指導や治療、助産師による生活指導、管理栄養士による食事指導などの対策がとられます。産後

は、子どもの健康情報が母子健康手帳に記録され、継続的にケアをしやすくなります。このような対策を受けることができる妊婦が世界中で増えていることをありがたく思っております。また、様々な専門家が活動いただくことや、妊婦とその家族がどのように行動することが適切か理解することによって、妊娠高血圧症候群による問題をさらに減らすことができると確信しております。

世界妊娠高血圧学会のプログラムでは、妊娠高血圧腎症の予知や予防など、最新の成果が反映された新しいガイドラインについてのセッションがあると伺っております。本会議において、参加者の皆さまが情報を交換するとともに、課題や今後の展望について議論し、妊娠高血圧腎症に対する認識を高める良い機会となり、そして妊婦の誰もが、より安心して尊い命を育み、いずれ未来を築くことになる子どもたちをこの世界へ送り出すことができますよう、心から願っております。